

## サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	灰 色 か び 病	炭 疽 病	苗 立 枯 病	褐 斑 病	褐 紋 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	莖 腐 病	根 腐 病	さ び 病	先 端 黄 白 化 症
Zボルドー水	M1		-	-											◎
タチガレン液	32		*a	3									◎		
トップジンM水㊟	1		1	3	◎			◎	◎						
ベンレート水㊿	1		1	3						◎					
クロスアウトFL	50		1	3							◎				
カナメFL	7	劇	1	4	◎					◎	◎			◎	
カンタスDF	7		1	2	◎										
ケンジャFL	7		1	2	◎										
バレード20FL	7		1	3	◎				◎	◎	◎				
ミリオネアFL	7	劇	1	4	◎					◎	◎			◎	
アミスター20FL	11		1	3	◎				◎	◎					
スクレアFL	11		1	3	◎	◎		◎	◎	◎					
ファンタジスタ顆水	11		1	3	◎					◎				◎	
セイビアーFL20	12		1	3	◎					◎					
ロブラール水	2		1	3	◎										
リゾレックス水	14		7	2									◎		
			*b	1			®						◎		
サブロール乳	3		1	3							◎				
トリフミン水	3		1	5							◎				
ラリー水	3		1	3							◎				
セーフガード乳	3		1	3							◎				
サンヨール乳	M1		1	4	◎						◎				
ペンコゼブFL	M3		*c	2				◎	◎						
ゲッター水㊟	1・10		1	3	◎										
ニマイパー水㊿	1・10		1	3	◎	◎				◎					
シグナムWDG	7・11		1	2	◎						◎			◎	

㊟:チオファネートメチル含有剤 ㊿:ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊿は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く、詳細はp. 856参照)。\*a:播種後及び生育期(但し播種後1~2か月後まで) \*b:播種時 \*c:収穫開始30日前まで  
®:リゾクトニア菌による病害

# サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	カ メ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ダ イ ズ ク キ モ グ リ バ エ 類	ウ ラ ナ シ ミ シ ジ ミ ガ 類	シ ロ イ チ モ ジ マ ダ ラ メ イ ガ 類	ウ リ ノ メ イ ガ 類	マ メ ヒ メ サ ヤ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ヨ ト ウ シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	マ メ ハ ン シ ミ ヨ ウ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類
ゼンターリ顆水	11A		*b	-									◎									
カルホス粉	1B		*a	1															◎			
ダイアジノン乳40	1B	劇	*d	3	◎																◎	
ネマトリンエース粒	1B		*e	1																		◎
マラソン粉3	1B		7	3	◎	◎			モ	◎	◎	◎	◎	◎						◎	◎	
アディオン乳	3A		1	3					ナ	◎					◎	◎	◎	◎				
トレボン乳	3A		1	2						◎					◎		◎					
トレボンEW	3A		1	2						◎					◎							
マブリック水20	3A	劇	1	3		ヒ																
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	2	◎			◎	◎	◎												
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*c	1					◎													
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎	◎	◎															
アニキ乳	6		1	3					◎								◎					
アフファーム乳	6		3	2													◎					
ニッソラン水	10A		1	2																		◎
コテツFL	13	劇	1	2													◎					◎
バダンSG溶	14	劇	1	3					ナ	◎												
アタブロン乳	15		1	2												◎						
カスケード乳	15		1	2												◎	◎					
ノーモルト乳	15		1	2												◎						
マトリックFL	18		1	3													◎					
ハチハチFL	21A	劇	1	2					ナ													
フェニックス顆水	28		1	2												◎	◎					
ブレバソンFL5	28		1	3					◎								◎					
ヨーバルFL	28		1	3													◎					
ウララDF	29		1	2	◎																	
プロフレアSC	30		1	3						◎						◎	◎	◎				

\*a:播種時 \*b:発生初期(但し収穫前日まで)

\*c:生育期(但し収穫14日前まで) \*d:収穫開始14日前まで \*e:定植前

ナ:ナモグリバエ ヒ:ヒラズハナアザミウマ モ:ハモグリバエ

サヤエンドウ

## サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病		<ol style="list-style-type: none"> <li>過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。</li> <li>発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。            ゲッター水和剤㊟● 1500倍            カンタストライフフロアブル 1000倍            セイビアーフロアブル20 1000倍            トップジンM水和剤㊟● 2000倍            ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍            ロブラール水和剤● 1500倍</li> </ol>	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
褐斑病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> <li>過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。</li> <li>次の薬剤を発生初期に散布する。            トップジンM水和剤㊟ 2000倍</li> </ol>	
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
褐紋病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> <li>過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。</li> <li>次の薬剤を発生初期に散布する。            トップジンM水和剤㊟ 2000倍</li> </ol>	褐斑病と混同されがちであるが、本病は葉にやや大型の円形病斑をつくる点で区別できる。
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
うどんこ病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病初期から次の薬剤のいずれかを散布する。            サプロール乳剤● 1500倍            サンヨール(乳) 500倍            トリフミン水和剤● 3000~5000倍            ラリー水和剤● 4000~8000倍</li> </ul>	施設では2月ごろから、露地では4月頃から発生する。特に収穫期にかけて多い。 ●DMI剤は耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
根腐病	播種前	<ol style="list-style-type: none"> <li>連作を避ける。</li> <li>登録のある薬剤を確認し、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。</li> </ol>	病原菌は土壤伝染する。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を認めたら次の薬剤を土壤灌注する。            タチガレン液剤 500~1000倍 3L/m<sup>2</sup></li> </ul>	

## サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い1mm以下の防虫ネットを張る。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダイアジノン乳剤40 1000倍 マラソン乳剤* 1000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	* 豆類(未成熟)での登録
ナモグリバエ	生育期	1. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを株元に散布する。 アルバリン粒剤# 9kg/10a スタークル粒剤# 9kg/10a 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 バダンSG水溶剤 1500～3000倍 アディオン乳剤 3000倍	# ハモグリバエ類での登録
ウラナミシジミ	初冬～春期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 3000倍	伊豆諸島の暖地で発生が多い。
ウリノメイガ	生育期(発生初期)	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	
シロイチモジヨトウ	生育期	・発生を見たら次のいずれかの薬剤を散布する。 カスケード乳剤 4000倍 デルフィン顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤 1000倍	* 野菜類での登録
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ニッソラン水和剤 2000～3000倍	